

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990300071		
法人名	社会福祉法人 星風会		
事業所名	星風会グループホーム こすもす おおひら		
所在地	栃木県栃木市大平町富田5-225		
自己評価作成日	平成25年8月12日	評価結果市町村受理日	平成25年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 栃木県社会福祉士会
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)
訪問調査日	平成25年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から2年が経過し、ご利用者様が高齢化していますが、ADLの低下予防、認知症の進行予防が図れるように、余暇活動や体操等を積極的に取り入れています。しかし、それぞれの方の好みや生活のペースがありますので、意向を尊重して提供させて頂いています。地域に開かれた施設、地域から信頼して頂ける施設を目指し、近所の公園へのお花見、近隣のお店での外食や買い物など、地域資源を活用し、地域との関わり作りを継続して行なっています。また、地域で活躍されるボランティアさんをお願いし、地域の方との交流を通して、ご利用者様に楽しみを持って頂けるように努めています。認知症対応型共同生活介護計画(ケアプラン)は少なくとも年2回以上見直しを行ない、ご利用者様のご希望や状態に応じたサービスが提供できるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、東武日光線新大平下駅から東方約200メートルにある大平医療福祉モール内に所在します。近くには日立工場跡地の運動公園や広大な雑木林などがあり環境豊かなところです。グループホームは開設2周年ですが星風会グループの一事業所であり経験豊富な職員により構成されています。このような環境の中利用者は安心して落ち着いた生活を送っています。事業所の優れている点としては、理念の共有と実践、運営推進会議を生かした取り組み、運営に関する職員意見の反映、重度化や終末期に向けた方針の共有と支援等が挙げられます。工夫点としては、災害対策において、次のステップに向けて期待したい内容が見受けられました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昼礼や会議等で理念の意識づけを行い、また理念を書いたカードをそれぞれの職員が携帯し、毎日のサービスで実践できるよう取り組んでいる。	理念を職員全員が理解しています。毎月の職員会議やユニット会議で理念を掘り下げ、確認して、毎日のケアで実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の新聞店や理容店等の利用、外食、循環バスを利用しての買い物などを行なっている。また、地域の小学校とも交流を図り、地域とのつながりを大切にしている。	地元の小学校の社会科見学で立ち寄った学童の歌を聞いたり、握手をしたりして触れ合う時間があります。また利用者手作りの雑巾を贈ったり、地元のボランティアを受け入れて、交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在のところ未実施		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方、行政の方、ご家族の方にも出席して頂き、ご提言や評価を頂いている。ご提言を下にボランティアさんの来荘や小学校との交流に繋げることができ、サービス向上に活かしている。	参加メンバーが充実しています。双方向的に運営され、参加者から地域の情報を得て、運営に生かしています。外部評価についても報告されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、実情や取り組みについてお伝えし、理解して頂いている。また、必要時は、電話等で情報交換させて頂き、協働関係の構築に努めている。	市町村担当者に利用者の状況を報告し、相談出来る関係が出来ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や門は常に開錠しており、自由に入出りできる環境である。一人で出てしまわれた場合は、職員が同行して安全確保に努めている。ベッドから転落の可能性のある方は、見守りのチェック表を作成し、定期的に安全確認を行なうことで、身体拘束しないケアを実践している。	一人ひとりの利用者の行動傾向を把握し、見守りに徹しています。家族からの要望があっても施錠するなどの拘束は行わず、マンツーマンで対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について内部研修を実施し、関連法や潜在する危険性について学ぶ機会を設け、虐待防止に努めている。また、新聞報道等があった場合は、職員に伝え、再認識を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ制度を活用したことはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は、ひとつひとつ丁寧に説明を行ない、疑問点がないか確認させて頂きながら、同意を得て契約している。また、解約時も十分な説明を行い、理解・納得を頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご利用様やご家族様へ出席して頂き、ご要望やご意見についてお聞きし、運営に反映している。また、ご家族様には契約時に、事業所以外にも苦情等の窓口機能があることをお伝えしている。	利用者、家族の意見や要望を面会時など、普段から把握するよう心がけ、利用者主体に考えて運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議や職員会議にて職員の意見や提言を聞く機会を設け、運営に反映させている。必要時は個別に意見を聞く機会を設け、迅速に運営に反映できるようにしている。	職員が発言しやすい雰囲気作りを心がけ、職員の提案を取り入れて運営に反映されています。職員会議かユニット会議のどちらかに出席できるように、シフトに配慮がされています。会議録も回覧しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用形態について法人の新たな方針や情報を伝え、各自が向上心を持って仕事に取り組めるよう努めている。また、働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、内部研修を実施し、職員の知識や技術の向上に努めている。また、外部研修にも参加し、スキルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加して頂いている。また、地域医師会主催の勉強会に参加し、他事業所との交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様や在宅で関わっておられた事業所様から情報を頂き、ご本人様の状況を把握し、ご本人様のご要望を確認しながら、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時、ご家族様のご要望や不安に感じていることなど、話がし易い接し方で望み、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接やアセスメントでニーズを把握し、初回ケアプランを作成するが、当事業所だけで調整できない場合は、他のサービス利用も提案させて頂き実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの方の残存能力を活用し、職員と共に行なうことで、「共に過ごし、学び、支えあう」関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来荘された時は、支援についてご相談し、共に考えていただくようにしている。また遠方のご家族様に関しては、電話や手紙等で、近況や状況をお伝えし、疎遠にならないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからの友人・知人の方にも快く来荘していただける雰囲気作りに努めている。馴染んだ場所への外出の協力もお願いしている。	家族や友人、知人の来訪時、交流スペースが開放されていて、食事をしたりお話を楽しまれています。電話の取次ぎ、手紙など、関係が切れない配慮がされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活室の座席に配慮し、孤立しないようにしている。余暇活動など一緒に行なって頂き、共に暮らしを楽しめる支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移る場合は、ご家族様のご相談に応じると共に、支援事業者に情報を提供し、生活の継続性が図れるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご利用者様の言葉や表情から、意向を把握するよう努めている。意思疎通が困難な方は、ご家族様から情報を得ている。	毎月、内部研修が実施されて、利用者の発言を否定しないなど、利用者を理解する努力がされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご利用者様・ご家族様との会話を通して、これまでの生活歴や馴染んできた生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方等をケース記録に記載して現状を把握している。記録の内容は全ての職員が目を通し、利用者様の新たな発見や変化も見逃さないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやサービス担当者会議には職員も出席し、意見交換を行い、ケアプラン内容を検討している。ご家族様が当日出席できない場合は、事前にご意見をお聞きして、ケアプランに反映している。	リーダー、居室担当者、関係者で話し合っ て、本人主体に検討し、それを介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施したケアの内容、その時のご様子、職員の気づきなどケース記録に記載している。また、主な内容は両ユニットが出席する昼礼で伝達し、共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	細かい日課は設けず、一人ひとりのペースに合わせて、臨機応変に支援を行っている。買い物代行や通院同行を行なうなど、柔軟なサービスを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に買い物ができるお店や、食堂があり、活用している。散歩やお花見ができる公園もあるので、ご利用者様の状態を見極め、実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様が希望される医療機関を受診して頂いている。ご家族様に通院同行をお願いしているが、不可能な場合はご家族様と相談し、職員同行で対応している。	法人内から月2回ドクターの往診があります。毎週1回訪問看護師が健康管理を行っています。掛かりつけ医は本人・家族の納得する医師になっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護ステーションの看護師が毎週来荘し、健康管理をしている。利用者様の状態をお伝えし、異常の早期発見ができるよう連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者に情報を伝え、安心して治療が受けられるよう支援している。また、退院時は病院関係者と連携を図り、スムーズに退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化・終末期ケア対応方針」を説明し同意を得ている。事業所での継続した生活が困難と見込まれる場合は、早めにご家族様と話し合い、理解が得られるようにしている。	終末期ケアの事例はまだないが、指針を作成し、入所時に説明しています。かかりつけ医と連携した取り組む姿勢が出来ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当に関しては定期的な訓練を実施していない。電話の横に急変時の対応について記載したマニュアルを備え、慌てずに対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様にも参加して頂き、定期的に避難誘導訓練、総合訓練を行なっている。地域の方との協力体制はまだ築けていない。	消防署の指導を受けた訓練を年2回行い、避難訓練は毎月実施しています。防災頭巾をかぶって避難する様子がスナップ写真で確認できました。	行政を取り込んで、地域との連携を図り、災害時に協力が得られるよう望みます。水、食料などの備蓄は3日分は必要でしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉づかいや対応に気をつけている。個人情報の取り扱いにも注意し、プライバシーの保護に努めている。	年長者として利用者に敬意を払っています。プライバシーに配慮し、馴れ合いにならないように、言葉遣いに注意していました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の動向や言動を注意深く観察し、ご希望や好みなど自己決定していただく機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間など、一人ひとりのペースで生活して頂いており、共同生活に支障がない範囲で、個人の生活リズムを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりのご希望に応じ、髪型・服装等の身だしなみやおしゃれを支援している。訪問理容も希望される方のみ利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど、できることは声かけをして手伝って頂いている。自家菜園の収穫なども手伝って頂き、食事が楽しみになるよう支援している。	月1回のこすもす食堂の日は利用者と一緒に献立を決めて食事を楽しんでいます。食の細かい利用者の食事の様子を観察し、食べやすく工夫して提供することで、今では完食できるようになりました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回摂取状況の確認を行い、カロリー不足や栄養不足にならないよう注意している。各利用者様の好みや嚥下状態も把握し、食生活全般を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔ケアが出来る方は行なって頂いてから、職員が磨き残しがないか確認している。義歯管理が必要な方は職員が支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表等を活用し、排泄リズムを把握するように努めて、できるだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。失敗した時でも、自尊心を傷つけないように配慮している。	排泄表はリズムを把握するまでチェックします。3日排便の無い利用者には、便秘のための対応をされるということです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動で、できるだけ便秘にならないよう支援している。排泄状況を職員間で把握し、便秘が続く場合は、ご家族様や医師の指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午後からゆっくり入浴して頂くことで、夜間の安眠に繋がるよう工夫している。自己決定できる方には入浴日や入浴時間を決めて頂き、入浴が楽しみのひとつになるよう支援している。	風呂は毎日立てていますので、毎日入浴する人もいますが、本人の意向に沿って、一日おきには入れるように言葉かけなどの工夫がされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を尊重し、日中の休息や夜間の睡眠をとって頂いている。夜間は明かりや室温にも配慮し、安眠して頂ける環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作成し、職員による2重チェックを実施している。服薬ファイルに説明書を添付し、変更時も情報を共有できるように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好みを活かした役割や楽しみごとを持って頂き、張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援では散歩や近所のコンビニ等へ同行し支援している。遠方へ外出を希望される場合は、ご家族様に協力を頂き、ご本人様の希望に副えるよう支援している。	大平運動公園までおやつ持参で出かけたり、レストラン(まんま亭)でそれぞれ希望のメニューを選んで外食ツアーを楽しまれています。車椅子でのまま乗れる車を法人内で調達して、外出の機会が多くなるように取り組まれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様とご家族様のご希望により、お小遣い程度に所持している方がいらっしゃるが、ご家族様からの預かり金は施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望がある方には施設の電話を使って頂き、連絡先をダイヤルさせて頂くなどの支援している。また、電話がかかってきた場合は取り次ぎを行い、外部との交流を支援している。手紙も同様である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間を毎日清掃し、気持ちよく生活を送って頂けるように努めている。庭では季節に合わせた草花を育て、野菜を栽培して、家庭的な雰囲気作りに努めている。	建物内はゆったりした配置になっていて、明るく広々としています。リビングルームには畳みのコーナーがあり、取り込んだ洗濯物を畳んだり休んだり、自由に使えるようになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	応接セットや畳コーナーを設け、仲の良い方同士で過ごせる空間を作り、自由に使用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室についてはご本人様が自宅で使っていた馴染みの物をご用意して頂いている。居室における生活と連続した生活を送って頂けるよう、自由に使用して頂いている。	居室は全室畳が敷かれていて、ベット使用の方と畳みに布団をしかれる方がいます。テーブル、整理ダンスなど、自宅で使用していた家具を持ち込んで使っていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっており、玄関アプローチや廊下、浴室、トイレには手すりを取り付けている。居室ドアはデザインを変えている他、好きな物を目印に飾って頂く工夫もしている。		